

こんばんは、今日はセントルイス宣言についてお話させていただきます。

「セントルイス宣言」が何故有名か紐解きます。去る1923年の国際世界大会で決議された34項の決議案です。これは我々ロータリーの考え方、基本精神・理念を本当にすばらしい文章で書かれています。特に日本人が大好きです。

世界中の会員がいろんな提案をしてこれは賛成・反対だという規定審議会というのが3年に1度あるのですが、そこでこれはもうなくてもいいんじゃないか、1923年で古い決議だということで一度定款細則から外れました。日本のロータリアンからとんでもないと抗議がありまして、もう一度戻ったという、そういういわく付きの決議です。それだけ大変な宣言だということを是非覚えておいていただきたいと思います。

何のことかといいますと、「耳たこ」だとは思いますが、1905年ロータリーが出来た年、まず4人が集まりました。弁護士さん、炭鉱の経営者、材木商とあとひとり。お互いの利益のために、その業種からひとり、大変乱れた商道徳の中で信用のおける人と仕事をしたいと。仲間を救ってそれを打破しようとするのがポール・ハリスの発想でした。

4つのテストは、後から倒産した会社を建て直した方が仕事上で使った言葉をロータリーで発言したら、それはいい考え方だということで採用されました。決して最初から高邁な理想で規約とか定款があったわけではないのです。

2年目に「君は自分の為だけにやっているの？それだけでは長続きしないよ。人の為になんか役に立つことをやらないとだめだ」ということを契機に社会奉仕を始めた。そこで自分達がお金を出して、シカゴ市役所に交渉して公衆トイレを作ったのです。それが最初の社会奉仕活動だといいます。それからどんどん、世の為、人の為、社会奉仕もがんばりました。それから方々の地域に広まりまして、海を越えてとりあえずはカナダ、イギリス、オーストラリアで国際奉仕ということができました。もともとクラブ奉仕はクラブの会員のためにやろうということですし、そもそも職業奉仕的なことがきっかけで集まったのですから、そういう意味でクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕ができて国際奉仕ができた。そして青少年のための青少年奉仕というのはその後出てきたのです。

そして「セントルイス宣言」とはどういうことかという、当時会員が増え、クラブが増えたなかで、アメリカで有名な「エドガー・アレン氏」がエリリアロータリークラブに入会しました。当時、「End Polio Now」ということで一生懸命やっておりましたが、現在は小児麻痺をなくそうとして国際ロータリーは財団を中心に頑張っております。

それは当時も流行っておりまして、身体不自由児というのが大変多かったんです。身体障害のある子供たちを救おうという動きが社会的に大きくなった。ロータリーは社会的な動きを起こそうというのではなくて、われわれ個人が仕事上で個人の考え方を職業奉仕ということで自分の家庭、会社、社会で「倫理観に富んだ活動をしていこう」というのがもともとロータリーの考え方です。みんなでお金を出し合って身体障害者を助けようというものとは考え方が違うのではないかとということで論争になった。

本来のロータリーの考え方というのは個人個人で「倫理観を深めて職業奉仕に邁進していこう」ひとのために考え、自分も「倒産しない程度に儲けさせてもらおう」というのがそもそもの考え方なので、それ以上のことは個人個人がやればいいのかと。そういうハンディキャップのある人を救おうというのは個人のレベルでやってもらいたい。決してクラブに強制したりすることではないということで大論争が起きた。それは、1918年にエリリアロータリークラブができて、その提案したのがそのきっかけでした。

その後そういう方たちが分かれてライオンズクラブを作るのです。そこにロータリーとライオンズの考え方の相違があるわけです。

私の知っている方も豊島区の方ですが、「少年野球を応援する」と言ってその方は少年野球支援のためのライオンズクラブを作りました。われわれはそういう考え方は持っていません。そういうことは個人でやっていただいて結構です。ただクラブでまとまってやるということはもともとロータリークラブでやろうとすることに反するのだという考え方があるんです。やってはいけないとはいませんが、個人で考えて税金を納めて税金でやってくれと言うか、そういう考え方がロータリーだと。

そういう大論争が18年～20年と続いてきたなかでエドガー・アレンさんが決議を求めました。3クラブが一緒になって全ロータリークラブに通知してもらおうということで、当時の国際ロータリーも決して悪いことをしようとしているのではないのでもいいのではないかと。そういう不幸な方々のためにロータリーが一肌も二肌も脱ごうということはそれなりに素晴らしいと。当時のポール・ハリスもロータリーに求めてくれたというのは歓迎するということを書いているわけです。しかし根本的な議論を重ねるとどうも生き方が違う、ということで困りました。

国際ロータリーがクラブにそういうことを強制するのはロータリーの考え方ではないし、かといって放っておくことでもない、ということでどうしようということで、いろんな決議が出されましたが、ようやく1923年に出てまいりました。セントルイスで行われました大会で、ロータリーそのものの基本理念と奉仕の哲学に対して、もともと社会奉仕の考え方に対する結論でしたが、普遍的なものとしてロータリーの考え方として言われています。

ちょっと読んでみますと、

「ロータリーにおいて社会奉仕とは、ロータリアンのすべてがその個人生活、職業生活、および社会生活に奉仕の理想を適用することを奨励、育成することである。

この奉仕の理想の適用を実行することについては、多くのクラブが会員による奉仕にその機会を与えるものとして、さまざまな社会奉仕活動を進めてきている。以下に掲げる諸原則は、ロータリアンおよびロータリークラブの指針として、また、社会奉仕活動に対するロータリーの方針を明確に表わすものとして適切であり、また管理に役立つものであることを認め、これを採用するものである。

1. ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間につねに存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕「超我の奉仕」の哲学であり、「最もよく奉仕する者が、最も多く報いられる」という実践倫理の原理に基づくものである。」

儲けたいというひとのためにやれば最後には自分が報われるのだということです。ですから少ない利益であってもみんなに喜ばれて自分として気が休まる、心持が良くなるというのがロータリーであるということです。

2. 本来ロータリークラブは、実業人および専門職業人の代表として、ロータリーの奉仕の哲学を受け入れ、次の四つのことを実行することを目ざしている人々の集まりである

まず第一に、奉仕の理論が職業および人生における成功と幸福の真の基礎であることを団体で学ぶ事

第二に、自分たちの間においても、また地域社会に対しても、その実際例を団体で示す事

第三に、各人が個人としてこの理論をそれぞれの職業および日常生活において実践に移す事

そして第四は、個人として、また団体としても大いにこの教えを説き、その実例を示すことによって、ロータリアンだけでなく、ロータリアン以外の人々のすべてが、理論的にも実践的にも、これを受け入れるように励ます事である。」

こうなると宗教的ではありますが、宗教ではないのですね。自分を犠牲にしても他人のためにやってあげなさい、という宗教的になる。我々のサービスは自分の為だけでなくいろいろな人のために考えてあげましょう、と。そうすれば最後に信用を得て自分に返ってくることになるんだということです。

3. 国際ロータリーは次の目的のために存在する団体である

(1) ロータリーの奉仕の理想の擁護、育成および全世界への普及

(2) ロータリークラブの設立、激励、援助および運営の管理

これは国際ロータリーだからあまりみなさんにお話してもしょうがないですね。

4. 奉仕するものは行動しなければならない。したがって、ロータリーとは単なる心構えをいうのではなく、また、ロータリーの哲学も単に主観的なものであってはならず、それを客観的な行動に表さなければならない。そして、ロータリアン個人もロータリークラブも、奉仕の理論を実践に移さなければならない。」

ということは、なるべく何かひとつのおもだった社会奉仕活動を、なるべく単年度ごとに異なった社会奉仕活動をやれと言われているのですが、それも会計年度内でやるというのがそもそもの考え方だったんです。またそれを応援することが望ましい、その奉仕活動も地域が望ましいと思うことをクラブ全員の一致した考えのもとでやる。地域でやっていること以外のことをやってください、ということです。ロータリーの社会奉仕は例えば期限をきる。

東京ロータリークラブがカンボジアで地雷除去をやったのですよね。はじめ5年、とても皆さんに喜ばれたので10年とピリオドを打ったのです。いつまでもだらだらとやっているというのはロータリー的ではないという考え方なのです。

そういうことは「セントルイス宣言」に書いてありますが、皆さんの地域社会で事業を追求するのであって、みんなに「喜ばれている」からといって毎年のように繰り返して、「あーロータリーさん、ありがとう」と言われることが目的ではないのです。

そういうことができたのであればそれは次の、例えばNPOとかそういうことをやる地方公共団体に任せて次の新しいニーズを探して、こういうことに皆さんは困っていると、こういうことなんとかならないかということに我々が少し行政を動かすとかいろいろな関係をとりとめて差し上げるとか、ということが目的なのです。それを是非詳しくお読みいただくとよくわかるかと思います。これが全てのロータリーにおける社会奉仕に対する考え方、基礎です。これは社会奉仕に限らず、ロータリーそのものの考え方に通じております。

ですから、これをはずされて日本のロータリーは全員怒ったのです。それぐらい大事な文章であったと。聞くとところによるとこの「セントルイス宣言23-34」を書き上げるために徹夜をして執筆した方は相当頭のいい方だったんだと思いますが、みんなにケンケン・ゴウゴウ、いろいろな話が行き交うなかで、いろいろな考え方をここまでうまく説明することができた、これほどの名文はありません。そういう文章でございます。1923年、「決議23-34」、これを知っていることは尊敬されるに値することです。

知らない方がたくさんいますが、一回ぐらいい聞いたことはあるのですね。皆さん。本来こういうことは偉い人が来て教えてくれないといけないのです。親クラブのセントラルパークさんもそうですが、一生懸命、僕らも皆さんに立派なロータリアンになっていただくよう頑張っています。今日はおふたりも入会式でバッヂを付けさせていただきました。2580地区では、6月末に150人近い退会者が出ました。期末で会員合計は2992人でした。今年度はなんとか拡大増強を成功させたいと思います。実は今は芽吹き始めています。

スポンサークラブや特別代表等を先行して、拡大にも努めて参りたいと考えます。

奉仕活動とはいっぱいあります。外国語が得意であれば国際交流的なこと。社会奉仕で御苑ロータリーここにありということをアピールしていただきたいと思います。

今日はどうもお招きありがとうございました。